

滋賀森林インストラクター会

会報・第21号

2017年12月31日



前号で紹介した銀杏の実のその後（大津市石山小学校 2017.6/26.11/24～27）

目次

- | | | |
|---------------------|-----------------|---------|
| 1. 2017年 県外研修～和歌山～ | 小西 民人
佐々木 建雄 | 2～6 頁 |
| 2. 緑の少年団指導者研修会 | 関澤友規子/高橋優 | 7～8 頁 |
| 3. 2017年度定例研修を総括して | 小西 民人 | 9～10 頁 |
| 4. 山に暮らす・・・交流会 2017 | 梶谷 栄治 | 11 頁 |
| 5. 「大砂川の森」森林整備活動報告 | 安田 浩一 | 12～13 頁 |
| 6. 京都会の間伐実習に参加して | 高橋 優 | 14 頁 |

2017 年県外研修報告

小西民人／佐々木建雄(一部の写真)

- 実施日 2017年9月9日(土)～10日(日)
- 場 所 和歌山県白浜町、すさみ町
- 参加者 梶谷栄治 上萩寛 小西民人 佐々木建雄 下川ご夫妻 関澤友規子
高田裕美子&ご親族 高橋優 平田ご夫妻 浦谷幸江(一般) 以上13名
- 内 容 今回の県外研修は、近畿連絡会の研修に相乗りする形で参加しました。
「熊楠の愛した熊野の森と海を満喫する」と題した近畿連絡会研修で、和歌山会の主催で開催されたものです。

I 9月9日(土) 海岸性のスダジイ型照葉樹林の観察が中心

大津駅前を7時50分頃に昨年と同じムラタ観光のマイクロバスで出発。運転手はこれまた昨年と同じ高橋さん。安全運転をよろしくお願いします。参加者は13名。バスの中はマイクの音が出なくて、自己紹介もなくシーン。研修前なので、当然アルコールもなく、眠るか車窓から眺めるのみ。高速をいくつか乗り継いで、岸和田SAで休憩、上富田ICを下りて白浜駅に11時40分頃到着。ここでマイクロバスとはお別れしたはずが、昼食を食べるために連絡して戻ってもらい、浜市場マルキヨへ、何を食べたかさえないものを食べ、白浜駅に12時45分着。和歌山会の皆さん、心配顔で待っておられて、恐縮です。

いよいよ、ここから研修の始まりです。まずは、海岸性の照葉樹林のある江須崎へ。大型バスで13時頃白浜駅を出発。江須崎に13時30分過ぎに到着。5班に分かれて、江須崎の国指定の由来や植生の概略的な説明を受けたあと、いざ、江須崎(写真①)へ！

駐車場にはクロガネモチが植えてあり、写真②のような状況。いかに潮風が強いかを物語る。歩き出すと、あの都市ガス臭いハマヒサカキやフウトウカズラ、トベラ、ウバメガシ、ヒメユズリハ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、サカキカズラ、モチノキ、イヌビワ、イヌマキ、オオタニワタリ(植栽)、アコウなどの南の海岸性照葉樹林を構成する種類が次から次へと。



写真①左 江須崎を望む



写真②右 クロガネモチの風衝被害

江須崎につながる磯で、③ハマナ



③ ハマナデシコ



④ ハマナタマメ



⑤ ハマアザミ

デシコ④ハマナタマメ⑤ハマアザミなどの海岸性の草本が見られました。

江須崎に入ると、⑥ハカマカズラ、イヌビワ、⑦シマサルナシ、⑧サカキカズラ、⑨フウトウカズラ、カラスザンショウ、タブノキ、⑩イイギリ、⑪タイミンタチバナ、⑫センリョウ、マンリョウ、⑬ハマセンダン、ヤブニツケイ(大木)、⑭ホルトノキ(紅葉)、⑮ミミズバイ、ムベ、サカキ、⑯アリドオシ、イヌマキ(大木)、ハスノハカズラ、イスノキ、モッコクなど、滋賀では見られない宝のような樹たちが次から次へと。もう満杯です。処理しきれません。それにしても、滋賀ではそう大きくならないヤブニツケイやイヌマキがこれほどまで大木に育つとは！ 驚くことしきりです。暖かさが違うと、これだけ大きな違いができるんですね。まるで、巨人の国に入ったかのように感じました。



⑥ハカマカズラの葉 と 実



⑦シマサルナシの実



⑧サカキカズラ



⑨フウトウカズラ



⑩イイギリ



⑪タイミンタチバナ



⑫センリョウ



⑬ハマセンダン



⑭ホルトノキ



⑮ミミズバイ



⑯アリドオシ

大木の立ち並ぶトンネルを抜けて着いた江須崎灯台では、ビャクシン、マサキ、ケウバメガシなどが観察できました。その後、ナワシログミやハウロクイチゴなどを見ながらバスの駐車位置まで戻りました。われわれ4班は早く到着したのですが、他の4つの班がなかなか帰ってこず、どこでコースを間違えたのか、今でも謎です。



熱帯のジャングルを彷彿とさせる風景が広がっていて、道に迷っても仕方がないか。

15 時 30 分頃江須崎を出発、見老津港に 16 時頃到着。次は漁船でのクルージングです。

3 隻の漁船で港を出航、西側にある枯木灘海岸に向かいました（写真⑰）。ウバメガシやクロマツなどが茂る沖の黒島と陸（おか）の黒島を海上から見学（写真⑱）。陸の黒島と陸側の恋人岬との間に陸繋砂州（トンボロ）が形成されつつあり、両側から波が打ち寄せる現象である夫婦波（めおとなみ）が見られるという説明を受けました。



⑰ 波は比較的静かでした

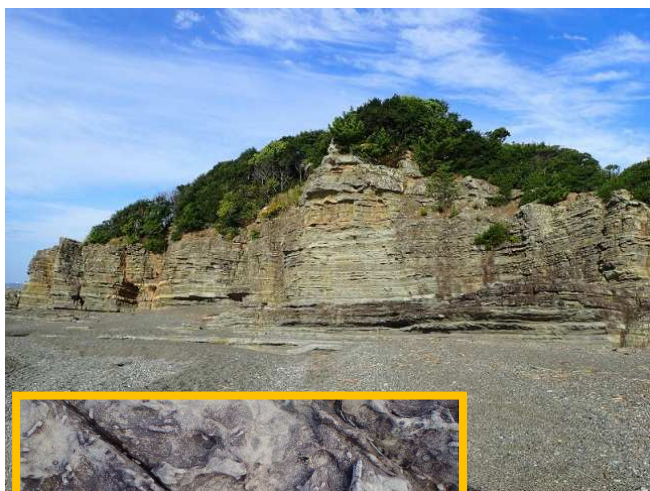


⑱ 海蝕洞も多く、熊野水軍の埋蔵金伝説も

クルージングを終え、港を 17 時頃出発。宿泊地のリバーユスパ日置川に 17 時 30 分頃到着。夕食、風呂、懇親会で充実した時間を過ごしました。鮎の塩焼き、スウェディッシュ・トーチ（丸太ストーブ）の実演など、心からのおもてなし、ありがとうございました。

II 9 月 10 日(日) 内陸性のカシ型照葉樹林の観察が中心

次の日は、朝食後の 8 時 10 分頃、リバーユスパ日置川のある志原海岸でのジオパーク体験から始まりました。講師は環境省田辺自然保護官アクティブレンジャーの中村さん。話はかなり地質学の専門的で、あまり理解できなかったのですが、田辺層群の砂岩の層と泥岩の層が交互に積み重なった地層と、そこにできる生痕化石や虫食い岩などが観察できました。



< == 生痕化石



虫食い岩

見て回っている途中、㉓カンコノキや㉔ハマゴウ、㉕ナルトサワギク（マダガスカル原産で南半球に多い、特定外来生物に指定された困ったちゃんです）、㉖ヒトモトススキなどを確認しました。



㉓カンコノキ



㉔ハマゴウ



㉕ナルトサワギク



㉖ヒトモトススキ

荷物をまとめ、リバージュspaをあとにしたのは9時15分頃。本日の目的地である広瀬溪谷に向け出発しました。9時35分頃、琴の滝荘に着いて、ここから内陸性照葉樹林についての研修開始です。

マツカゼソウ、㉗ハスノハカズラ、ホウロクイチゴ、㉘ナチスゲ、㉙ヒメバライチゴ、クリハラン、㉚ヤマビワ、ツブラジイ、㉛ヘラシダとそのソーラス、イズセンリョウ、リンボク、㉜ハマクサギ(成葉)、㉝イワヒトデ、㉞カギカズラ、ヒメイタビ、カゴノキ（ここでデジカメの電池切れ、以降の写真は関澤友規子氏に依頼しました。ありがとうございました。）、ルリミノキ(未成熟の緑の実)、トキワガキ、㉟カンザブロウノキ、コバンモチ、クロガネモチ、イヌガヤ、タイミンタチバナ、ミミズバイ、ヤマグワ、㊱マツバラ、㊲シシランとそのソーラス、㊳イワナンテンなどが確認できました。琴の滝には10時50分頃到着。ここで一息入れて、帰りには見落としていた㊴ツルクウジ、バリバリノキ、ヤマモガシなどを確認。琴の滝荘には11時35分頃帰着。



㉗ハスノハカズラ



㉘ナチスゲ



㉙ヒメバライチゴ



㉚ヤマビワ



㉛ヘラシダ と そのソーラス (孢子囊群)



㉜ハマクサギ(成葉)



③③ イワヒトデ



③④ カギカズラ



③⑤ カンザブクロウノキ



③⑥ マツバラシ



③⑦ シシラン



③⑧ イワナンテン



③⑨ ツルコウジ

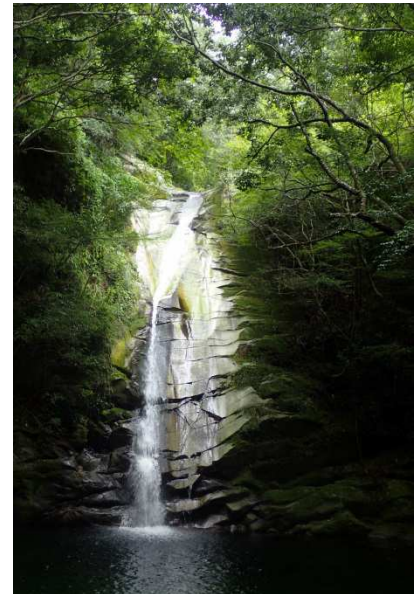
琴の滝荘での昼食を終えて、12時30分頃、白浜の熊楠記念館に向けて出発。13時頃到着。ここから知の巨人南方熊楠に触れる研修の始まりです。半端でない知的好奇心、決して引き下がらない熱い気持ち、ほとばしるエネルギー、揺るぎのない信念、動じない態度。どこかの国の何とかという、姑息で、自分の懐や票や名声や近い者の中でちやほやされることが大好きな、あの御仁には熊楠の爪の垢でも煎じて飲んで欲しい。おっと脱線！失礼しました。

記念館の屋上からは、近くに海蝕の進む円月島や、やや遠くには熊楠が守ったという神島が望めました。

記念館をあとにする時、許可を得て、リバージュスパの玄関でも拾ったシマナンヨウスギの落ち葉をたくさん拾い、土産としました。これは後ほど、滋賀県やまのこ事業での小学4年生のクラフト

材料として利用。長いまま使ったり、切って短くして使ったりと結構人気者になりました。14時30分頃記念館をあとにして解散場所のJR白浜駅に14時45分到着。和歌山会の皆さま、大変お世話になりました。

帰りもムラタ観光のマイクロバスで15時05分白浜駅出発、途中紀ノ川SAと京田辺PAで休憩



琴の滝



円月島



神島遠景

を取り、大津駅前に18時30分到着。けがも体調を崩される方もなく無事終わってほっと一安心。お疲れ様でした。

～緑の少年団指導者研修会～

今年度で4年目となる滋賀県緑化推進会からの委託事業「緑の少年団指導者研修会」が実施されました。本年度は樹木観察とネイチャーゲームを行うプログラムで研修会を実施しました。県内各地区で計7回の緑の少年団指導者研修会が開催され、以下の滋賀会会員を講師として派遣しています。

その中から、「びわこ地球市民の森」と「河辺いきものの森」で開催した研修会を紹介します。

開催日	開催場所	滋賀会講師
7月30日(日)	西部南部地区：びわこ地球市民の森	高田裕美子、高橋優
8月9日(水)	湖北地区：きゃんせの森	下川茂、小西民人
8月21日(月)	高島地区：ビラデスト今津	梶谷栄治、高橋優
8月22日(火)	湖北地区：高山キャンプ場	下川茂、佐々木建雄、上萩寛
8月25日(金)	中部地区：高取山ふれあい公園	高橋優、小西民人
8月30日(水)	甲賀地区：みなくちこどもの森	小西民人、佐々木建雄、高橋優
9月3日(日)	中部地区：河辺いきものの森	水田有夏志、関澤友規子、小西民人

「河辺いきものの森」研修会（9月3日）

関澤 友規子

今年も湖東・河辺いきものの森での指導者研修会にスタッフで参加しました。愛知川溪畔林のこちらは春にはニリンソウやキクザキイチゲなど、夏にはタコノアシなども見られる貴重な森。当日は3団体、9人の参加。今回は小西さんの案で、前半は地図を見ながらコースを歩き、ポイントとなる木などを皆で探す、という趣向。皆さん、楽しんで探していましたが、コース前半に集中した為に時間がかかり、後半は端折った感あり。もう少し時間が必要だったか？です。この日は「ハイイロチョッキリ」の切り落としたコナラの枝が数多く見られ、その見事な切り口や何故どんぐりの帽子に穴が開いているのか等考えて頂き、また水辺でモンキアゲハが吸水しているのも間近で見たり出来て「いきものの森」ならではの体験でした。

後半はネイチャーゲームで「ノーズ」と「私は誰でしょう」の2つにトライして頂き和気あいあいと楽しんで頂けたようで、皆さん、これからの活動に活かして頂けたら良いなあと思いました。



ハイイロチョッキリに切り落とされたどんぐり



研修会の冒頭、緑化推進会からの説明



自然観察を兼ねた「発見ビンゴ」



「発見ビンゴ」水辺の植物



ネイチャーゲーム「私は誰でしょう」

「びわこ地球市民の森」研修会（7月30日）

高橋 優

今年度の指導者研修は、樹木観察とネイチャーゲーム紹介というプログラムを採用しています。地球市民の森での研修会では参加者が少ないことを考慮して、樹木観察を兼ねた「発見ビンゴ」と「動物ヒントリレー【樹木版】」を実施しました。

プログラムの最初に、P.Point の説明資料「ネイチャーゲームを楽しむ」でネイチャーゲームの紹介をし、樹木観察を兼ねた「発見ビンゴ」をしてもらった。下見の時に撮った樹木の実などの写真を使い16枚のビンゴを準備したものです。ターゲットを発見するごとに説明をするという樹木観察を実施することができました。参加者はふたりだけでしたが、ベテランの指導者の方で、樹木など自然のことを良くご存知でした。見事に「発見ビンゴ」16枚全部発見していただきました。

「動物ヒントリレー【樹木版】」は緑推の妻井さんと高橋も参加し、4人のチームでヒントリレーを行いました。これぐらいの人数でリレーをしないとこのゲームは面白くありません。高田さんが出題してくれた樹種5つのうち制限時間内に回答できたのは4種でした。ちょうど良い難易度の出題であったと思われます。

今回実施した「発見ビンゴ」と「動物ヒントリレー【樹木版】」はおふたりともご存知無かったとのこと、今後の緑の少年団活動に利用していただけたら幸いです。

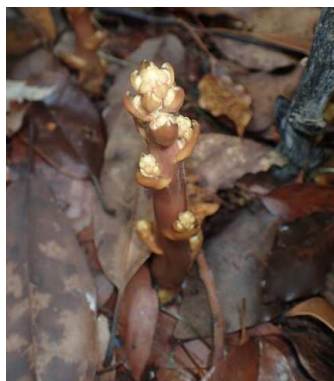
～2017年度の定例研修会を総括して～

研修担当 小西 民人

今年度は次のように4回の研修会を実施しました。敬称略です。

①5月14日(日) 大阪交野市・大阪市大植物園 (報告者; 平田)

参加者7名(佐々木、下川、平田、水田、高田、関澤、小西)



ツチアケビの芽生え



シイモチのみ



カタクリの実とエライオソーム

②7月9日(日) 京都亀岡市・宗教法人おほもと花明山植物園 (報告者; 小西)

参加者6名(梶谷夫妻、平田夫妻、高橋、小西)

下見7月2日(日) 参加者(橋木、関澤、小西)



ヤマユリ



キレンゲショウマ



ジャコウソウ

③9月24日(日) 兵庫神戸市・神戸森林植物園 (報告者; 高田)

参加者6名(佐々木、平田夫妻、高田、関澤、小西)



アサザ



イスノキの虫こぶ



サンザシの実

④11月12日(日) 大阪交野市・大阪市大植物園 (報告者; 高橋)

参加者7名(梶谷、高橋、平田夫妻、橋木、関澤、小西)



トベラの実



バクチノキの樹皮



シイモチの実(半年後)

今年度は、できるだけ多くの植物に出会える植物園巡りの研修会を実施しました。県内には整った植物園がなく、結果的にすべて県外での研修となってしまいました。しかし、より多くの実物を見て確認するという点ではよかったのではないかと思います。

5月の市大植物園では、春の妖精カタクリの種子に付いたエライオソーム(種枕)をしっかりと確認できたのが何よりでした。カタクリは種子をアリに運ばせるために、アリの好む脂肪酸や糖を含むゼリー状の塊であるエライオソームを種子にくっつけています。種子を広く散布する戦略の一つです。アリは種子ごと巣まで持って帰り、巣のすぐそばに種子だけ捨てます。このようにして、アリ散布に頼っている植物はアリの巣近くに仲間を殖やすことになります。試しに、少し持って帰ったカタクリの種子をアリの近くに置いてみると、必死に運ぶ様子が見られました。納得です。

7月の花明山植物園は、近畿やその近郊のあまり出会えない珍しい植物を集めているところで、写真のような華やかな花たちが見られました。特にキレンゲショウマは四国や紀伊半島に稀に見られる貴重な植物で、今回、花の内部まで観察することができました。この植物園は冬以外のいつの季節に行っても楽しめる、花愛好家垂涎の場所です。

9月の神戸森林植物園は六甲の自然を活かした植物園で、そこでは今や琵琶湖で絶滅の危機に瀕している、水生植物のアサザが観察できました。また、イスノキにくっつく虫こぶの一種を割って中のアブラムシ(イスノキタマフシアブラムシ)をルーペで見たりしました。イスノキには枝や葉に11種ほどの別々のアブラムシによる虫こぶができるようで、アブラムシにとって余程便利な存在なのでしょう。

11月は二度目の市大植物園。ここでは鳥を呼ぶ赤い色をしたトベラの種子。この種子は表面によく粘る粘液を持っていて、鳥の糞による散布だけでなく、嘴にくっついて運ばれるとも。仲間を殖やす戦略は二重、三重に準備され、ホント不思議なものです。また、5月に見たシイモチの実が6か月もかかってやっと赤い実に。それだけかかっても鳥にとって不味いわけで、何か割に合わない気がします。他にどんな戦略があるのでしょうか。

以上、簡単に4回分の研修会での心に残ったことを振り返りました。

今年度の研修会を総括すると、ここ数年同じなのですが、参加者が少なく、また、ほぼ同じ人だけが参加している状況で、変わりばえしません。研修担当が交替して新しい態勢で臨むと事態も好転するのではと期待しています。どうでしょうか。担当者はよい成果が得られれば苦労も気にならないものです。そうでなければ……。

山を活かす 山を守る 山に暮らす交流会 2017

梶谷 栄治

この交流会は、森林山村地域が有する魅力を県内外の都市に住む人達にPRし、森林山村での就労や定着を考えるきっかけとなる交流の場として、県が毎年主催しているもので、12回目の今年は10月14日、長浜市木之本町西山 木之本運動広場で開催され、1500人（主催者発表）が参加しました。中央特設舞台では、功労者の表彰や抽選会、木之本中学校の吹奏楽、地元湖北地方で森に関わって活動している人達のトークショー等。

最後は地元のステージダンスグループ「よさこい」による賑やかな舞台でした。舞台の外ではチェンソーアートの競演も恒例に。一方、県内から参加している49団体の各テントでは展示、物品販売、森に触れる体験、そんな場になっていました。

毎年参加している我が滋賀森林インストラクター会のテントも、会活動の宣伝の写真や、用意しておいた押し葉からパウチ体験などの場を設け、多くの方が楽しんでいました。中川会員作の「ドングリころころレーン」は、今年もファミリー客を中心にテント前で足止める人も沢山でした。毎回、参加者から好評を得ている当会の「キノコ汁」は今年も完売しました。

参加者数について、一昨年の豊公園までは多く賑やかだったが、昨年の永原と今回は少なかった。事前の宣伝が行き届いていなかったかも。



「大砂川の森」 森林整備活動の報告

安田 浩一

まずはじめに、活動を開始するまでの流れを説明し、次にこの森林の概要等について報告します。

○平成28年ごろに滋賀会の会議で林業の研修会の話があり、自分の森林を使ってもらっても良いと申し出ました。それを受けて、佐々木会長と高橋事務局長が6月に現地を見に来て、次年度の事業計画に森林整備の研修会として検討することになりました。

○平成29年度の事業計画に反映され、7月に役員会メンバーと「スポルティームくも」の川中さんが加わり現地下見を実施。「スポルティームくも」とは、総合型地域スポーツクラブ「湖南市ちょいすぽクラブ」の中の三雲東小学校区内で小学生を対象として活動するスポーツクラブです。

○その後、8月の役員会で、森の名前を「大砂川の森」とし、森林整備の研修会を11月頃に開催することになりました。

○第1回森林整備活動（2017年11月19日(日)晴れ）

参加者約20名、内滋賀会会員参加者4名、女性4名、子供4名。

活動内容は、拠点づくりのための伐採など。活動後、川中邸へ移動して反省会（昼食会）。

○第2回森林整備活動（2017年12月17日(日)晴れ）

参加者約20名、内滋賀会会員4名、女性6名、子供4名。

活動内容：事前に仮設テントなどの材料を準備（安田以下4名で搬入）して、それを組立て雨風をしのげる拠点テントとする。拠点とする広場周辺の伐採、片付け。



さて、上記のような流れで当研修がスタートした訳ですが、私がこの森林を所有することになった訳、またその後、この森林に対しておこったことなどを説明します。

私の仕事（造園）の師匠で、消防団の先輩でもあり、「スポルティームくも」での同じスタッフでもあり、また林業の経験と知識がある川中さんに森林インストラクターであることを自慢していたら、それならマイフィールドを持つべきであるとのアドバイスを受け、川中さんの所有林を購入することになったのです。それが平成26年でした。

しかし、自分の森林を持ったものの仕事もあるので放ったらかしにしておりました。すると、ある日突然に湖南市役所から電話がかかってきたのでし

た。さて、どういうことだったのか、申し訳ありませんが紙面の都合もあるので、この話の続きは森林整備をしながら別の機会にしたいと思います。

ところで、私が森林を購入しようと思ったのは、森林インストラクターとしての使命感もありましたが、その他に、森林内での活動、特に森の中の山小屋作りや、火のある暮らしなどに興味があったの

です。アウトドアの雑誌などで特集されたりしている、日本なら鴨長明、海外ならソーのような体験をしてみたかったためです。



大砂川の森整備に集まったみなさん（2017/12/17）



梶谷副会長 薪材作り



仮設のテント小屋を建てる

最後に「大砂川の森」の近くのおすすめポイントを紹介します。

- ① 八丈岩 よじ登ることができる巨岩が立ち並んでいる。（私が子供の頃はできた）この岩場で猿飛佐助が修行をしていたそうです。岩の上からの眺めは絶景です。近江八幡方面が一望できます。
- ② 三雲城址 八丈岩から少し奥に行ったところ。三雲城址からの眺めも絶景。草津方面、三上山、琵琶湖が一望。
- ③ 弘法杉 「大砂川の森」から下流300mほどの堤にそびえる樹齢750年と言われている大杉。弘法大師が使った杉箸を刺したところ、成長してこのような巨木になったと伝えられています。

このような名所旧跡が近くにある「大砂川の森」です。12月の活動で仮設のテント小屋ができました。寒さに弱い方はその中で作業することもできます。みなさん、ぜひ一度ご参加ください。

京都会の間伐実習に参加して

高橋 優

京都会のご厚意で、京都会が6月4日(日)、10月7日(土)に京都市京北の「合併記念の森」で開催した間伐実習に滋賀会会員も参加することができました。滋賀会会員の上萩さんは京都会の研修担当もされておられ、滋賀会からの参加を快く受け入れてくださいました。滋賀会の参加者は6/04 5名、10/07 4名でした。間伐のやり方は、地域により違っていて、間伐の経験が有る者にとってもいろいろと参考となるものでした。



檜に鋸を入れる下川さん



ロープで引き倒す



切断面



10/07 の参加者

編集後記

会報第21号(2017年度下半期号)がようやく完成しました。年末の雑用で忙しく、除夜の鐘を聞きながらの編集作業でした。

今号では、滋賀会の活動の多くが網羅された内容となっています。また、記事は力作、大作が多く、読み応え充分ではないかと... 原稿を寄せられた皆様に感謝いたします。

(高橋)